

国分寺市でのペンシルロケット水平発射実験成功から60年の時を越えてつなぐ想い

# 私とペンシルロケット

## 「できる理由」を探す

### 系川先生から引き継がれる文化

#### 第11回 川口 淳一郎さん (JAXA宇宙科学研究所) シニアフェロー

#### プロフィール 川口淳一郎さん

1983年に当時の文部省宇宙科学研究所に着任。2011年からシニアフェロー。ハレー彗星探査機さきがけ・すいせい、工学実験衛星ひてん、火星探査機のぞみなどのプロジェクトに携わり、小惑星探査機はやぶさでは、プロジェクトマネージャを務めた。小惑星探査機はやぶさ2のシニアアドバイザー。著書に「はやぶさ、そうまでして君は」(宝島社)など多数

(\*)工学実験衛星ひてんで世界で初めて行われた、月スイングバイの時に、空気抵抗で減速して軌道を変える技術

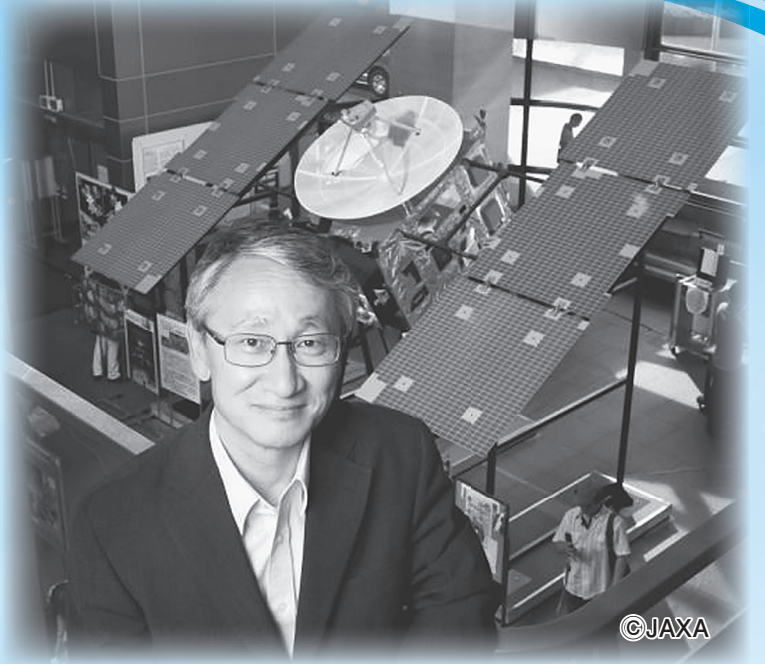


小惑星探査機はやぶさの長く厳しい旅を象徴するラストショット ©JAXA

「このロケットを作れば、ここにいけるよ」と、「こうすればできるよ」と進めていく文化は、ステップを踏んで物事を段階的に進めていく日本では、実に不思議な文化で、それは宇宙研のルーツである系川先生の考え方が引き継がれているのだと思います。

私が大切にしているのは、宇宙開発で何をやるのか、何を目的にするのかです。近い将来、太陽系で新しい生命体が見つかるかもしれない。宇宙資源の活用が始まるかもしれない。人類として、そうした方向に向かうときに、それに携わりたいし、貢献したいし、牽引したいというのがある。先にあります。では、どうしたらできるのか、そこに到達する手段はどういう方法があるのか。きつと、いろいろな手段があるはずなんです。

(語り)



©JAXA

2010(平成22)年6月、小惑星探査機はやぶさは、世界で初めて月以外の天体からサンプルを持ち帰りました。そのプロジェクトマネージャを務めたのが、川口淳一郎さんです。川口さんは、1980年代初期から小惑星探査の可能性を模索し続け、約30年という時間をかけて、このプロジェクトを実現。世界で初めての軌道計画や航法、技術を生み出し、「こうだからできない」ではなく、「こうやればできる」ということを積み重ねていきました。

私が大学院生として、東京大学宇宙航空研究所(現在のJAXA宇宙科学研究所)に入った1978(昭和53)年は、日本初の人工衛星おおすみ打ち上げが8年目というところでした。そのころの宇宙研は、1年に1回ロケットを打ち上げて、人工衛星が上がるたびにみんな喜んで、その繰り返しで、世界に太刀打ちなんて、とんでもないことでした。

1979年になると、ハレー彗星へ探査機を飛ばそう、そのために大きなロケットを作ろうと考えます。普通に考えたら「そんなこと言ったら、できるわけない」って思うでしょ。でも、宇宙研にいた先生方は「こういうものを作ればできるよ」と当時の文部省に説明して、計画を通してきてしまう。

「このロケットを作れば、ここにいけるよ」と、「こうすればできるよ」と進めていく文化は、ステップを踏んで物事を段階的に進めていく日本では、実に不思議な文化で、それは宇宙研のルーツである系川先生の考え方が引き継がれているのだと思います。

私が大切にしているのは、宇宙開発で何をやるのか、何を目的にするのかです。近い将来、太陽系で新しい生命体が見つかるかもしれない。宇宙資源の活用が始まるかもしれない。人類として、そうした方向に向かうときに、それに携わりたいし、貢献したいし、牽引したいというのがある。先にあります。では、どうしたらできるのか、そこに到達する手段はどういう方法があるのか。きつと、いろいろな手段があるはずなんです。

**ふるさと納税のお礼にペンシルロケットレプリカを贈ります**  
 JAXA宇宙科学研究所共催・1,000機限定

ふるさとチョイス <http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/13214>から(右のQRコードからもアクセス可)。または電話で市政戦略室へ  
 ★市内在住の方も申し込みできます



市役所への申し込み・問い合わせの時間は、特記がない場合は月～金曜日午前8時30分～午後5時(正午～午後1時を除く)の受付となります。

→市政戦略室(内441)